



JAC北九だより

No.77 (平成28年 第3号)

公益社団法人 日本山岳会 北九州支部

kitakyushu Section of The Japanese Alpine Club

発行:公益社団法人 日本山岳会北九州支部

支部長 関口 興洋

事務局: 行橋市東泉3-18-10

竹本 正幸方

TEL-FAX 自宅 0930-28-9611

携帯 090-6739-9251

編集人: 事務局(森 義雄)

印刷: 山口県山口市水の上町2-25

内 藤 製 本 所

山の日制定記念

山の文化展

～ 入 場 無 料 ～

● 山の写真展

北アルプス槍ヶ岳山荘主人で山岳写真家・・・穂苅 康治氏
北九州支部会員で山岳写真家・・・大谷 城氏
北九州支部会員自慢の写真・・・各会員

● 山の絵画、版画

● 山の古道具展

● 山の歴史展 (マナスル登頂60周年記念)

● 山岳会の紹介、その他



日時 8月3日(水)～9日(火)9:00～17:00
(3日は、13時から)

場所 門司港レトロ・旧門司税関ギャラリー2F

主催 公益社団法人 日本山岳会北九州支部
後援 毎日新聞社 北九州市
公益社団法人 北九州市観光協会

文化展開催中の8月3日～9日まで、毎日会場内で3人の案内人が必要となります。

ご協力いただける会員の方は、事務局(竹本正幸:携帯090-6739-9251)まで、ご連絡ください。

支部長就任のごあいさつ

13643 関口 興洋



関口新支部長

平成28年5月14日に開催された第17回通常総会において、伊藤支部長の後任として支部長に選任されました関口です。この度、支部運営の大役を担うことになりましたが、組織の運営は役員会を中心として皆様方のご支援・ご協力を得ては

じめて機能いたします。

当支部は2000年の9月に発足してから、15年しか経っていませんが、歴代の支部長の下で培われてきた実績を踏まえ、支部発展のため、微力ながら着実に一步一步前進してまいりたいと思います。山岳会は山の好きな、未知の山野への憧れを持つ人々が集う団体です。

山行実施に当たって最も大事なことは身の安全は自分で守るということです。登山だけでは駄目です、当たり前なことですが下山が安全に行われて初めて、登山という行為が完結するわけです。事故の大半は下山の際に発生しています。当支部では園川顧問が指導される山岳専科、指導員研修が年間計画の下で開催されています。

会員・支部友の垣根なくだれでも受講できますので、研鑽を積んで支部のレベルアップを目指していただきたいと思います。特に新しく支部友として入会された方には、日ごろの地道な活動を通じて、一年後には通常会員に進級するという大きな目標をもって精進していただきたい。

ご承知のように、日本山岳会は、会員の高齢化など深刻な課題を抱えています、今年から8月11日

が国民の祝日「山の日」としてスタートします。

この機会をとらえ、一般市民・山岳愛好家の山への関心を一層深めていただくため、伊藤前支部長が企画した「山の文化展」(8月3日～9日、門司港レトロ地区の旧門司税関ギャラリーで開催)と8月11日の家族登山(風師山～矢筈山)を実施いたします。この二つの行事は北九州市役所、毎日新聞社、北九州観光協会の後援を頂き推進中です。皆様の積極的なご協力と参加をお願いいたします。

5月14日、マナスル登頂60周年を記念して風師山で榎 有恒登山隊長(元日本山岳会々長)の碑前祭を行いました。榎さんが揮毫を頼まれたときに、よく書かれたのが次の詞です。

「山を尊び
山を愛し
山と共に生く」

この詞は「山の日」制定の理念と一致するもので、榎さんの謙虚なお人柄を如実に反映したものと、われわれも心に留めおきたいと思います。

1958年(昭和33年)、九重登山の折に立ち寄られた山小屋牧ノ戸(現在の九重観光ホテル)のロビーにも榎さんの墨蹟が残されています。

毎日会館の1階にルームがあります。クラブ・ライフを楽しむための施設です。

ここには、山に関する書籍、雑誌、全国の各支部から寄せられた支部報などが展示されています。

全国の各支部が国内外で活動した最新の情報が紙面に残され、山の情報の宝庫です。山行できなくとも、読むだけでも知識がふくらみ、いつの日か夢が実現するかも知れません。是非、ご活用下さい。

簡単ですが支部長就任のごあいさつといたします。

支部長退任のごあいさつ

13499 伊藤 久次郎

今回、どうにか無事に関口新支部長にバトンタッチすることができました。とは言っても、最後のゴールである総会にたどり着けず、到着寸前でくたびれ果ててしまった感じで、3月19日から肝臓ガンで田川病院に入院してしまいました。別にくたびれ果てたわけでも飲み過ぎたわけでもありません。そして

4月末退院しましたが、引き続き現在も通院治療を続けております。

総会を欠席して大変申し訳ありませんでした。

2011年から5年間、北九州支部長を務めさせていただきましたが、これも皆さまのおかげであると感謝いたしております。有り難うございました。

5月14日(土)

平成28年度 第17回通常総会の報告

14852 竹本 正幸



写真 ラ・メール・雅 総会会場

平成28年5月14日(土)午後4時30分よりレストラン「ラメール・雅」で北九州支部第17回通常総会ならびに関連行事が開催されましたので報告します。

1. 第17回通常総会(午後4時30分～5時40分)

午後4時30分より竹本事務局長の司会で、第17回通常総会が開催されました。

板倉副支部長より開会の辞、竹本事務局長より本日の総会出席者38人、委任状20人で、会員総数73人に対して過半数に達しておりこの総会は成立したことが報告されました。

次いで、伊藤支部長療養中のため、日向副支部長が、マナスル初登頂時代の登山はたいへん封建的でした。今年は国民の祝日「山の日」が制定され、新しい時代が来たのかなと感じます。山に登って、山の恵みに感謝して、自然に対する備えをしていくことが大切だと思います。支部としては、今後とも多方面にわたって活動を続けて行きましようといひあつされました。

議長選出の前に、支部山岳指導員への認定書の授与があり、昨年修了者6人に認定書が交付されました。(B級：伊藤友紀、C級：赤瀬榮吉、歳弘逸郎、奥田スマ子、藤井信義、藤井淳子)

その後、議長に日向副支部長が選出され、各議案の審議に入りました。

第1号議案：平成27年度事業報告(丹下役員)

第2号議案：平成27年度収支決算報告(縄田役員)

第3号議案：平成27年度 監査報告(木原役員)

第4号議案：役員改選(案)(竹本役員)

第5号議案：平成28年度事業計画(案)(縄田役員)

第6号議案：平成28年度収支予算(案)(縄田役員)

第7号議案：支部会費の規約改正(案)(縄田役員)

以上の第1号～第7号議案すべて原案通り可決承認されました。

特に支部会費の規約改正(案)に関しては、通常会員から支部会費徴収と支部友の年会費値上げという切実な問題でもあり、多数の意見が出され審議討論されました。

①他支部の記念行事に参加する場合のご祝儀は支部から出してほしい

②山行参加費500円を従来通り徴収しては

③ビジターは参加費を徴収した方が勧めやすい

④支部会費を納入しない通常会員は、退会となるのか。

⑤伊藤支部長退任後は顧問に推薦しては

⑥連絡事項・申込み等はメールでの対応を進めては

⑦役員手当を考えると

等々の意見が出ました。

最後に、退任される役員、板倉副支部長、木原監事のあいさつがあり、続いて新任役員の紹介がありました。

池田監事の閉会の辞で総会を終了しました。

参加者：40人(内2人は支部友)

園川陽造、大庭常生、日向祥剛、井上佑、
溝部忠増、大城戸昌敏、原広美、板倉健一、
井上禮子、馬場基介、磯野文雄、高島拓生、
関口興洋、藤田傳、太田満、山田武史、
池田暁彦、内藤正美、丹下治、武永計介、
大木康子、榊俊一、丹下香代子、大内喜代子、
竹本正幸、竹本加代子、木原充、池田智彦、
赤瀬榮吉、縄田正芳、縄手修、歳弘逸郎
三浦利夫、塚本久嘉、清家幸三、田中貴大、
藤井信義、藤井淳子、三宅明子、松田幸恵

2. 懇親会(午後6時~8時)

午後6時から、会員・支部友39人が参加して、関門の絶景が広がる会場にて、磯野新副支部長の進行

で懇親会が開催されました。冒頭、長らく事務局長をつとめ当支部の礎を築かれた関口新支部長のあいさつ、大先輩の藤田傳会員の乾杯で開宴となりました。夕暮れの頃には、対岸の山口県側へ沈む夕日が素晴らしく、宴会を中断してシャッターを切る人が続出しました。

その後は、竹本事務局長のもとで新入会員の紹介がなされ、続いて、太田満会員の日本300名山完全踏破(平成27年10月12日)、武永会員の海外遠征計画の披露、原会員の女性登山者としてのエピソード、丹下会員の自然観察や歴史をめぐる山旅等の紹介があり、懇親会は大いに盛り上がりました。

最後に、日向副支部長のあいさつと音頭で「坊がつる讃歌」を唱和し、池田会員の手一本でめて、無事閉会となりました。(文責：13533 磯野文雄)

風師山風頭で「榎有恒碑前祭」

快晴のもと午前9時30分、北九州支部、地元の山岳会、一般登山者を含め40人が風師山の榎有恒記念碑前に集いました。

献花の到着を待ち、午前9時50分より板倉副支部長が主催者を代表してあいさつ。当時のパイオニアワーク等マナスル初登頂の後の登山活動について話された。

続いて、丹下会員が記念碑設置のいきさつを報告、関口会員が榎有恒の略歴を詳しく紹介、風師山早朝登山会代表世話人の菱田哲郎氏が榎有恒氏を風頭に案内した堤甚五郎さんの思い出と早朝登山会の連続登山回数や歴史について語られた。

幸幼稚園児3人と子供たちによる献花が文字通り花を添えた。

最後に雪山讃歌を池田智彦氏の指揮のもと、参加者全員で合唱して碑前祭を終了した。



写真 風師山風頭

「マナスルに立つ」上映会

日本山岳会第3次マナスル登山隊のマナスル登頂60周年を記念して、午後1時から門司港レトロ旧大連航路上屋の2階ホールで、「マナスルに立つ」(企画・制作毎日新聞社、監修日本山岳会)の上映会(一般公開)を開催。

上映前に、毎日新聞西部本社松藤幸之輔・編集局次長が「世界初登頂は、登山ブームを牽引し、政治経済文化外交にも大きな影響を与えた」とあいさつされた。

国内の準備段階から現地での民族とのトラブルなど登頂に至るまでの記録を克明に写しだしています。48人が興味深く観賞しました。



写真 松藤幸之輔・編集局次長のごあいさつ

4月9日～10日

第32回全国支部懇談会～鮮やかな早春の越後の山へ～

14852 竹本 正幸



9日(土)、第32回全国支部懇談会は、越後支部主管で新潟市の奥座敷岩室温泉「ゆもとや」で開催され、本部をはじめ、全国より253人が参集しました。北九州支部より関口興洋と竹本正幸の2人が参加しました。

やひこ館コンベンションホールにて 午後1時30分より後藤正弘事務局長の司会によりスタートしました。遠藤支部長、小林会長のあいさつと続いた後、二人の講演会がありました。

最初に「弥彦連山の植物」と題してユキツバキとツバキの違いや弥彦山の植生について石澤進氏よりお話がありました。石澤氏は新潟大学理学部教授、積雪地域植物検収所長でありユキツバキに関する著書や新潟県植物分布図など興味深い講演でした。

2番目に山を語る時、山を想うとき、そこには酒がある。「山・人・酒」と題して、元越後支部長の平田大六氏より味わいある語らいで大変興味ある講演がありました。平田氏は日本山岳会永年会員で、関川村村長でもあり、新潟清酒学校長でもあります。伝説的に「猿酒さるざけ」という話が残っている。

人は酒造りの技術を猿から得たというものの真理は如何に・・・新潟が地酒王国になった。新潟清酒の特徴は、①水と米 ②気候と風土 ③真摯な酒づくりにあり。

具体的にそれぞれを語ってくれました。最後に酒飲みにもマナーがある。11か条のうち二つを紹介される。

「酔わぬは礼を欠く。その酔いざまに品格の上下あり。酔って悪しき態は、怒、長、淫なり」

「酒席での約束事は酔醒(さ)めるとともに消えると心得おくことにこそ肝要なり」

30分ほどでしたがたいへん有意義な講演でした。

その後、懇親会になりアトラクションとして「竹延と雲雀会」による新潟民謡のご披露がありました。日頃、なかなか口にできない越乃寒梅、雪中梅、鮎

正宗、八海山等々新潟の銘酒が次から次に出てきて、銘酒の利き酒をしているようでした。懇親会はアツという間に終了して、さらに場所を変えて二次会でも懇親を深めることができました。

ほろ酔い気分で部屋に帰り、床について間もなく、お風呂で倒れた方がいるとの館内放送があり、同室内に不在者があれば連絡してほしいとのこと・・・。

10日(日)2日目、午前6時に全員集合の放送があり、大広間に集合すると越後支部の遠藤支部長より「会員がお亡くなりになった」という悲しいお知らせがあり、全国支部懇談会はこの時点で中止・終了となり、記念山行も中止になる。

その後は、個人で行動することになり、私は東海支部5人、宮崎支部6人とともに越後支部の田邊信行さんの案内で弥彦山に登ることになりました。

福岡県の英彦山1199[㍉]、兵庫県の雪彦山915[㍉]と共に弥彦山(638[㍉])は、信仰の修験道の山として「日本三彦山」と云われ、関係行政当局も三彦サミットを開催してきている。

西蒲三山の最高峰・弥彦山は、頂の御神廟に越後開拓の祖である越後一宮弥彦神社の御祭神・天香具語山命(あまのかごやまのみこと)が鎮座している霊峰である。山頂は「神剣峰」とも呼ばれています。

弥彦山の特色は次の四点が挙げられる。

①県下一の展望の山である。②日本最北の万葉集の山である。③一等三角点本点と天測点の山である。④登山入門の山である。

ちょうどカタクリが開花しており、山一面に薄紫の花が群生していて、それは見事でした。他にもユキフリソウ、イカリソウ、イチゲ、コシノコバイモ、エンレイソウ、アブラカントムシバ、水芭蕉も開花にうとい私も周囲につられてシャッターをきる。

登り1時間半の行程に2時間半もかかってしまう。下りは、飛行機の時間もあり、宮崎支部とは別行動になり、東海支部の方と一緒に下山しました。

ホテルで入浴の後、遅い昼食を済ませ、最終午後2時発の送迎バスにて、帰路に就く。

今回の懇談会では不慮の事故が発生して、越後支部の方々は対応に大変だったとお察しします。会場までの行程では、越後支部の佐久間様に空港から車のご手配をいただき大変助かりました。また東海支部の方にもお世話になりました。ありがとうございました。

月例山行 2月21日(日) 三瓶山で冬山訓練 冬山山頂での鍋は温かくおいしかった!!

15891 藤井 信義



写真 男三瓶山

天候：晴れ

2月20日～2月21日にかけて参加者10人による伯耆大山冬山訓練を予定していましたがあいにくの強風、雨のため、事前に中止となりました。

しかし、20日午後から21日は天候も回復すると思われ、日帰りで島根県の三瓶山での訓練に変更となりました。

21日午前4時、山口セミナーパークを出発し、午前7時30分三瓶山登山口に到着。早速、車から降りて登山準備に入る。まずはオーバーズボン履いて、オーバージャケットを着ます。そして登山靴を履いて、スパッツを着ける。さらにハーネスを着けて安全環付きカラビナやシュリングを取付け準備完了。ザックにはワカンも提げている。どう見てもヒマラヤにでも登るような恰好であると笑いながら全員で顔を見合わす。

午前8時登山開始。本日は私が先頭である。もちろん三瓶山に登るのは初めてです。

登山口から多少雪はあったがアイゼンは着けずに登り始める。登山道は多少凍ってはいますが滑らずに歩くことができたのでそのまま登り続けていると

後ろの方から「早い」と何度も怒られる。なんせ先頭を歩くのは初めてであるためペース配分が分からない。しばらくして、途中でアイゼンを着ける。これは雪道途中でのアイゼン装着練習である。この短い休憩時間にお茶を飲み行動食を一口食べる。アイゼン装着後は滑ることもなく登りやすくなる。それからしばらく登ると今度はロープを使った滑落停止訓練である。ロープを3人でつなぎコンティニアンスを行う。試しに最後尾の人が滑落してみるが、雪が凍っていないせいか勢いよく滑らない。私は止める役で左手に持ったロープの輪を目掛けてピッケルを突き刺すが上手く突き刺すことができない。これはなかなか難しい。

午前11時30分三瓶山頂上の男三瓶山(1126^m)に到着。皆で集合写真を撮る。さあこれから昼食である。頂上の避難小屋で竹本加代子さんが持参した2つの鍋を囲む。あまりの美味しさにあつという間に食べてしまう。食後のコーヒーも実に美味い。午後零時30分下山開始。踏み跡のない斜面を尾根伝いに下っていく。何度も足がズッポリはまってしまうのでシリセードで滑るように下っていく。

午後2時30分登山口に無事到着。

今回初めてロープを使って登りましたが、持ったロープに気をとられて足元への注意がおろそかになり転倒しやすくなりましたので、慣れるよう繰り返し練習が必要と思われました。今回、大山冬山訓練は中止でしたが、急きょ三瓶山冬山訓練の企画をしていただき貴重な冬山訓練となりました。

参加者：10人

会員：武永計介(CL)、竹本正幸(SL)、
大内喜代子、竹本加代子、森義雄、歳弘逸郎、
藤井信義、藤井淳子、
ビジター：寺田幸司、寺田峰子

月例山行 4月2日(土) 市房山(1720.8^m) 思い出の深い熊本の市房山

15806 清家 幸三

天候：曇り

市房山は九州山地のど真ん中で奥深いところの難度のある山だと思っていた。ですから、特に天候は気になった。一週間前の晴れの予報が4日前からあ

やしくなり、3日前は回復できず心配になり竹本さんに相談をすると前日に予定を繰り上げることにした。

2日小倉南区で竹本さんご夫婦の車に乗って、

早朝午前5時30分に3人で出発。午前9時8分キャンプ場に到着藤井さんご夫婦と今回のコースリーダーの塚本さんと合流する。設営場所を打ち合わせて早々に登山口へ。林道脇の駐車スペースに停めてすぐのところ竹本さんが登山計画書を提出。ポストに入れて午前9時35分にスタートする。すぐに市房神社の苔生した参道へ入る。杉の大木に圧倒される。一見、福井の永平寺と熊野古道の雰囲気を感じた。神社にある看板の説明書きには1000年以上の樹齢であった。

神社は新しく建て替えられて一部は避難所になっている。ここで衣服を整えて神社横の本格的な登山道に入る。ここは4合目。深い林と大木の根が道を覆っている急な登山道がずっと続いていく。私がいあがっているのに下山中の人「ここは頂上まで登り続ける道だから楽しんで」と軽快な声かけを耳にしたが、その人の顔は見なかった。7合目から8合目近くになり木々が少しずつ変化してきて周りが広がるようになって見通しがよくなって来た。

晴れ間もちらほら顔を出してきて下の市房ダムも見えてきた。頂上からの眺望が頭をかすめる。期待を持って踏みしめて行ったが、9合目辺りから頂上が見えてきたと思ったら急にガスが出て来た。あれはうその頂上だと塚本さんが教えてくれる。その頂上にたどり着いて目の前に本当の頂上が現れた。足元に低い標識があり“二百名山市房山 山頂まで5分”と明記していた。私の計時は6分以上で1722mの頂上に到達。期待していた眺望よりは達成感が満たされた。頂上到着は12時6分、スタートから2

時間30分かかった。登山口から標高差900m。私にはいつもよりは早いペースだ。頂上で昼食を済ませて名所の心見の橋に行く。この岩の割れ目にある大きなチョックストーンの上で心を試せると説明書きがあり、前もって調べていた本にも人が立っている写真があった。すぐに藤井さんの奥さんが試みたが、安全装備なくして渡れる橋ではなかった。いつこの様になったのだろうか。

この光景を見るだけで十分だった。心を見ることをあっさり断念してすぐに引き返して午後零時55分に下山の途に就く。登りと同じ道を木の根に注意を払いながら駐車場到着は午後3時8分。キャンプ場を設営、近くに湯山温泉があり、桜の咲く山里の情緒と似合いの浴場に浸かりながら疲れを癒した。

この市房山キャンプ場は管理棟もあってよく整備されており、広い芝の上で芋鍋を囲んで食べること、飲むこと、話すことでこの山の難度も忘れて6人全員がひと時を楽しみました。

初めての芋鍋の味が忘れられず、レシピを竹本の奥さんに聞き、帰宅後、一カ月間で3回試して作り方を覚えました。

その夜はやはり雨が降りました。計画の繰り上げと天候の予測の大事さを学びました。山行後の11日過ぎに熊本地震が発生しました。書き込めない程のたくさんの思い出を私の心に残した山行でした。

参加者：6人

会員：塚本久嘉(OL)、竹本正幸、竹本加代子、清家幸三、藤井信義、藤井淳子

月例山行 4月3日(日) 岩石山(がんじゃくさん) (454m) タムシバと山桜の合唱を観賞し巨石に感動

15709 山中 秀正



写真 展望台から

天候：曇り

午前8時55分添田公園駐車場に集合。車での参加者はすでに到着、JR列車での2人が合流し全員集合です。

自己紹介し、本日のルート説明、気になる天気予報の報告をし、15人の参加者をA班8人とB班7人に分け、留守本部に携帯ショートメールで出発連絡を行いました。

絡を行いました。

午前9時5分登山開始、午前9時11分ころ「この先、民家の軒先を通過するのでお静かに」と参加者へ注意をします。

人面岩、三の滝、二ノ滝を通過し、丹下会員より樹花の「タムシバ」を教えてくださいました。「コブシ」との違いが花びらの裏に葉っぱが付いているかどうかで区分します。

午前10時9分、等身大高さの鎖場を通過すると「針の耳」を通ります。午前10時20分尾根に出ます。標識が倒れており、振り返ると帰り道に通るとなると道間違いを起こしかねない踏み跡らしきが尾根に続いており、とうせんぼ表示の枯れ枝を置きました。

午前10時40分、一度目の岩石山の山頂到着です。展望台があり、名盤と山名を確認したいのですが、遠くがかすんでおり「この方向に〇〇山があるのに、今日は見えない」に終わりました。

午前10時54分、八畳岩から一度赤村登山口に下がります。

午前11時22分、巨石群に到着し、落ちそうで落ちない岩の下をくぐり抜けます。お決まりのポーズで笑顔になります(写真)。東屋に戻り行動食を口にします。再び登り返しです。八畳岩を通過し松の木に「きのこ」、なんでしょう「クリダケ」とのこと。あとで「ヒトクチダケ」の修正連絡をいただきました。

午後零時20分、二度目の岩石山に到着し、昼食、集合写真はドローンによる空中からの撮影ではありません。展望台から撮影した写真です。

午後零時45分、下山開始、柱跡の岩の箇所、岩石城の落城と歴史の話を、丹下会員よりいただきました。近くの仮小屋の中にノートがあり、15人登頂の記載をしました。

午後1時56分、駐車場に着き、留守本部に解散メールをしました。

※今日のルートは、ヤマケイ福岡県の本に記載されているルートA案に対しての岩石山の巨石群を見たいB案を探りました。岩石山にはルートがいろいろあり、北側に葛城山からのルートや、南側に弓張岳からのルートがありますので、各自C案もルート選択ができる山なのです。当日は、天気が気になりました。なにしろ駐車場でばらっと降ってきたと言われ、下山まで天気予報の0ミッが当たることを祈りつつ、雲の動きから目が離せない山行状況でした。聞くところによると、この時期には「キヌガサダケ」が発見できるそうです。今回は、この山の有名人の川崎エミさんには会えませんでした。この山に一万回以上登頂されている方でした。ここで一句「見上げれば 汗の山道 ちるさくら」凡人かな



写真 チョックストーン

参加者：15人

会員：山中秀正(CL)、原広美、井上禮子、磯野文雄、関口興洋、丹下洽、大木康子、丹下香代子、今田智恵、奥田スマ子、町元里香、

支部友：畑井教子、藤原玲子、

ピジター：中畑、吉武

月例山行などの報告

・3月13日(日)

黒髪山往復(リーダー三浦、畑井)

参加者：関口興洋、大木康子

青螺山～黒髪山(リーダー塚本、森)

参加者：井上禮子、宮城尚志、大内喜代子、竹本正幸、竹本加代子、赤瀬榮吉、三浦利夫、町元里香、清家幸三、藤井信義、藤井淳子、藤原玲子、ピジター：安達美保、和田敦子

・3月27日北浦スカイライン(リーダー森)中止

・3月23日 英彦山トイレ清掃(1人：竹本正幸)

・4月29日～5月1日

祖母・傾縦走 → 地震のため中止

・6月19日 岩登り(平尾台) 雨のため中止

・7月3日 沢登り(内住峡) 雨で延期

★ポレポレ山行記録

・4月28日(木) 平尾台 参加者13人
春の野の山(オキナグサ他)

・5月26日(木) 万年山(大分県) 参加者9人
ミヤマキリシマ

・6月5日(日) 平尾台 参加者9人
ヤマツツジ

月例山行 4月17日(日)英彦山清掃登山 熊本、大分大地震のさなかで 15138 縄田 正芳

福岡県添田町の英彦山(1199[㍎])で4月17日(日)日本山岳会北九州支部主催による恒例の清掃登山が行われました。

前夜から明け方にかけての強い風雨、そして14日夜、16日未明に起きた熊本県から大分県にかけて震度7の大地震の余震の影響がある中でした。参加者数が心配されましたがJAC北九州支部からは新入会員5人、ビジター1人を含め28人。また添田町関係者や山岳愛好家など全5団体、計57人の参加がありました。JAC北九州支部竹本事務局長より今日の登山上の注意、清掃範囲等の説明、日向副支部長の挨拶のあと正面登山道、ほっか道の2コースに分かれ山頂目指して出発。

幸いにして地震による登山道のくずれなどはありませんでした。午前11時半頃中岳山頂着。上宮社や一昨年建設された頂上パイオトイレにも被害はないようで安心しました。山頂トイレは掃除の状態も良く、行き届ききれいな状態で登山者に喜ばれていました。

昼食後清掃を開始。当初の計画は大量のゴミが残っ

ているという山頂休息所南斜面をする予定でしたが足場が悪く危険なので上宮社より産霊(おすび)神社へ下る道の西斜面の清掃に変更しました。強い風をうけながらの清掃作業でしたが30分余りの間に参加者の両手の袋はあっという間にいっぱいになりました。ペットボトルや紙などの可燃ゴミはあまりなく、そのほとんどは古い空き缶やビン類、ビニールばかりでした。新しいゴミが少ないのはパンフレット配布などによる最近の登山マナー啓蒙活動の成果が出ているようでした。それに比べて一昔前の登山者のマナーはかなりひどかったのが感じられました。山にはまだまだ昔のゴミが大量に残っています。来年はもっと多くの参加者とともに清掃活動を行い、きれいな英彦山にしたいと思います。回収したゴミは軽トラック2台分くらいでした。

参加者：28人

会員：日向祥剛、井上禮子、馬場基介、高島拓生、内藤正美、丹下治、丹下香代子、竹本正幸、竹本加代子、縄田正芳、縄手修、歳弘逸郎、大谷恵美子、塚本久嘉、町元里香、清家幸三、田中貴大、藤井信義、藤井淳子
支部友：橋爪久吉、橋爪明代、加藤信子、藤木秀利、坂本昭広、三宅明子、出水貴之、大塚浩美
ビジター：藤本和代

月例山行 5月8日(日)四王司山(392[㍎]) 勝山三山を巡る 15580 大谷 恵美子

行程

勝山御殿駐車場8：25～青山(288[㍎])往復～分岐～勝山(361[㍎])～岩山(昼食)～四王司山頂(392[㍎])～新四王司団地経由(石鎚神社登山口3合目)～5合目鉄塔～14：10駐車場

天気：晴れ

駐車場でメンバーと集合し、出発。歩きはじめ、少し下り、住宅地を横切りすぐに樹林帯に入る。

この山はどのコースも住宅地から登山口が近くにあり。分岐から青山途中、少し急登あり、車道に出る。あまりこちらに来る人が少ないのか？昔来たときより随分荒れている。青山を折り返し、分岐を通り、途中で山男の遊び(2台のハンモック)を発見。毎年、この稜線はミツバツツジが咲き、地元の方々にも人気のところ、残念ながら今年はこの花も例年より、2～3週間早く咲いたようです。そんな話をしながら歩くうちに一株の遅咲きの花を見つ

ける。勝山に向かって急登が続く、ロープや標識などは地元の山の会で守られているようだ。途中、石垣などがあり、登り切ると山頂に着く。

勝山山頂付近は平坦面が段状になっており、城郭の遺構が確認できる。ロープを片手に下り、鉄塔の下を通り、季節は春から初夏へヤマボウシが次の出番を待っていた。途中から岩山に向かう、低山でもアップダウンが続く、私もシャリパテ気味。その後、メンバーから地獄蒸し卵が回る。全員で口に入れ、ここで昼食をとる。

四王司神社に手を合わせ、裏にある三等三角点にタッチして展望台に移動。下に長府の町、右は門司、小倉方面、左は小野と見晴らしの良いところです。私事です、3年間初夏の夜中に登りました。

石鎚神社登山コースの3合目まで下り、住宅地に入り、5合目の鉄塔に登りが続く、5合目からの下りは足取りも軽い。下山後、全員で移動し、国民宿舎で汗を流し、海峡を囲んで対岸には北九州があり、景色も良いところです。会の皆さんもぜひ来られてください。

参加者：6人

会員：大内喜代子(CL)、大谷恵美子(SL)、竹本正幸、竹本加代子、縄田正芳
支部友：藤原玲子

5月29日(日) 英彦山山開き

雨の中、登山道は花々が咲きほこる！！

14554 丹下 香代子



写真 オオヤマレンゲ

天気:雨

朝から雨、昨夜は前夜祭があり参加者は約300人だったとのこと。

今日の山開きは雨のため登山者は少ないと思われる。私は日帰りで山開きに参加。北九州の自宅を5時45分出発、途中はまだ霧雨状態なのですが、英彦山に近づくと雨となった。

青年の家午前7時30分着。雨のため早く出発しようとのことで午前8時15分出発。

リーダーから雨なので30分ごとに休憩を入れてゆっくり登ろうとの指示。

雨で濡れた木々の緑に雨具の色がとても美しい、北西尾根の急登です。パードラインに入る。このコースは私たち夫婦の好きな道で、野草や野鳥が多く時々野鳥が足元に来ることもあり、自分も自然と一体になれる場所です。四季折々中でも春と秋が最高です。

今日は皆さんと「あの花」「この花」と色んなウツギやドウダンツツジなど。歩荷道から正面参道へ入る。行者堂着午前9時45分、小休止。出発してすぐ左側にオオヤマレンゲの木があるのですが、見ると咲いています・・・？エッ 本当に咲いています。それもたくさん・・・山開きの時期に咲いているのは初めてです。最高・・・！！

「オオヤマレンゲ」は別名(森の貴婦人)また、大峰山では「女の花」と呼ばれ、ほのかな香りが森の中に漂うのです・・・そんなステキな花に会え、元気をいただき山頂へ。

上宮のすぐ下に咲くベニドウザンツツジも美しく、登山者を励まし、元気づけていました。

午前10時5分山頂上宮着。雨が激しいので中に入って、神事が午前11時なので待つことにする。

午前11時神事がはじまります。今回の玉串奉典は日本山岳会北九州支部を代表して丹下洽会員、筑豊山の会とほかに二人の方が、「登山者の安全、山での災難のないことを祈る」最後に登山者代表で赤瀬会員の万歳三唱で午前11時30分神事は終了。

記念のタオルをいただき、さあ昼食です。山頂小屋へ行くが、雨なので人・人・人・。

来るときに休憩した観察小屋まで下りて昼食をすることになり、午前11時32分下山開始。

ぬれた石段に注意して下ります。お腹は空くし、足元は悪いが、ツクシタニギキョウやギンリョウソウなどが……。観察小屋着、もう少しで駐車場なので頑張ろうと昼食はそこで……

午後1時10分別所駐車場に到着。やっと、昼食です！！と思ったら、携帯電話が……？

毎日新聞の記者からです、山開きの取材に来られていたのですが、雨のため奉幣殿にて取材中だったのですが、上宮の写真を見たいとのこと、私たちはすぐ新聞社へ急ぐ……が、お腹は……。会員の皆さん、お疲れ様でした。重いお酒を担いで登られた三浦さん本当にご苦労様でした。

★出会った花々

ツクシヤブウツギ・コックバネウツギ・ツクシタツナミソウ・ツクシタニギキョウ・ウツギヤマトツジ・ヤマオモト・ユルアジサイ・ベニドウダン・オオヤマレンゲ・ポウノハナ・ケカマツカ・ギンリョウソウ・ツクシマムシグサ・コゴメウツギ・マルバアオダモ・コバノガマズミなど

※本日は、奉幣殿の境内にある「ヒコサンヒメシヤウ」が咲いていたそうですが、たまたま見る事ができなかったのは残念でした。

参加者：9人

会員：榊俊一(C.L)、三浦利夫(S.L)、
丹下洽、丹下香代子、竹本加代子、
赤瀬榮吉、町元里香、清家幸三、

支部友：藤原玲子

月例山行 6月12日(日) 福智山(900.6m)

北九423 橋爪 久吉・北九442 橋爪 明代



写真 竜王峡で

天候：小雨

午前8時30分迄に参加者9人、竜王峡キャンプ場駐車場に集合。赤瀬CLから今回のテーマ、地図読みの福智山地図を2枚ずつ配られる。(ビニール袋に地図を入れてあり濡れないよう、ご配慮頂きました)

午前8時40分から小雨の中、登山口を出発しました。竹林の中、山中SLを先頭にリズム良く登り、沢を右側にガレ場を登り山瀬越の所で山中SLがエスケープを言われたのでビックリしました。山瀬越の縦走路で、いよいよコンパスの登場です。ガスが

かかっている中、地図上で磁北線(真北より少し西より)にコンパスを当て赤い線と水平になるようにダイヤルを回して、目指す山の方向に赤い針が重なるようにして方向を決める。

ガスのかかった縦走路を歩くと、カラス落としに到着、ヤマボウシの白い花が見事に咲いて小鳥の声も聞こえ雨の山にマッチしていました。

荒宿荘で昼食(大きいゆで卵を頂きニコニコ)後、5人が頂上へ、気温15℃、視界はゼロ、山ツツジの赤は緑に映えていました。集合写真を撮り、荒宿荘で午後1時より復路・・・山瀬越から竜王峡登山口まで、登りでは気付かないガレ場の足場の悪さ、急斜面でした。登山口に山中SLが元気な姿で待っていました。後は集合写真を撮りパチリ!

雨の中、楽しく学ぶ事が出来ました。地図、コンパス、磁北線の3点が大事、赤瀬CLはじめ、参加者の皆さま、ありがとうございました。

参加者 9人

会員：赤瀬榮吉(CL)、山中秀正(SL)、井上禮子、竹本正幸、竹本加代子、奥田スマ子、支部友：橋爪久吉、橋爪明代、藤原玲子

月例ポレポレ山行 3月31日(木) 狗留孫山(くるそんさん)(616.3m) 修禅寺探訪

15710 町元 里香

行程

道の駅「きくがわ」9:30～駐車場10:00/10:15～修禅寺10:45/11:15～狗留孫山頂上11:50/12:05～分岐12:30～奥の院12:45～駐車場13:30

天気：曇り

駐車場に車をとめ出発。山道を登っていくと山桜が膨らみはじめている。左に折れると修禅寺までの階段が続く。所々にまむし草が青々とした顔を出している。修禅寺では観音岩大師、十一面観音などの説明をつけた。狗留孫山頂上へ向かう。曇っていたため日本海側の島は見えない。頂上で軽食をとり下

山。分岐点から奥の院に向かう。奥の院まで八十八の石仏があり、ひんやりとした厳粛な空気の中を進む。下山後、重兵衛茶屋に移動し、プルプルとした手作りこんにやくに味噌がかかった田楽と、サクサクとしたジャガイモのかきあげがドーンとのっている温かいそばをいただく。心も体もほっこり温まる1日でした。

参加者 10人

会員：原広美(CL)、関口興洋、井上禮子、丹下洽、丹下香代子、縄田正芳、奥田スマ子、町元里香
支部友：松田幸恵 ビジター：河野健一

個人山行 5月2日(月)~6日(金) 大峰奥駈道縦走 晴れ男パワー全開パート2

14079 内藤 正美



写真 大普賢岳

ここ数年、GWには四国の山旅が宮崎北部を歩いてきたが、地震のこともあり、四国は一昨年、昨年と続いているので、今年は紀伊半島まで足を延ばす計画をした。

大峰奥駈道の一部とはいえ初めてであり、テントを担いで歩きとおせるか不安ではあったが、エスケープ道もあるので、大普賢岳から釈迦ヶ岳を計画した。

5月2日(月)・3日(火) 天候：曇り

2日午後8時山口出発。翌3日早朝大台ヶ原到着。雨予報のせいか駐車場は閑散としている。警備員の話では日曜日は大変な混雑だったと手持ち無沙汰に話してくれた。

曇天ではあるが、すぐに一雨来る様子ではないので、日出ヶ岳に向かう。

山頂は吹き飛ばされそうな強風で長居できないので時計回りに散策開始。

大蛇ヶで絶景を焼き付け、シオカラ谷に下り駐車場に登り返す。途中はシャクナゲのトンネル満開になれば見事だろう。正午前にはふもとの上北山村の道の駅着。温泉もあるが、夕方に入浴することにする。なにせ汗もかかない散歩であった。

その晩はかなりの雨が降る予報だったので前もって民宿の素泊まりを予約していた。

夕方から本降りとなりテントでなくよかったと一同大喜び。明日からの修行に向けて爆睡。

4日(水) 天気：晴れ

未明から星空になったそうで、朝から快晴さすが晴れ男。4日は午前4時起床今回の山行は登山口と下山場所にかかなりの距離があるので車2台で効率よ

くうごくため、8人のメンバーで出発した。本来は山上ヶ岳から縦走するべきだが、女性が4人いるので和佐又から入山する。前日に下山する前鬼に一台回送しておいたため登山口まで一台でピストンかなりの時間を要した。長時間の歩きに備え十分にストレッチし出発。風は強いものの明るい日差しを浴びながら快適な登り。天候に感謝。

笹ノ窟では昨夜の雨のせいか上から水滴が滴り落ちてくる。翌日釈迦ヶ岳近くで出会った盛装した修験者に聞いたところでは、真冬には見事なつらが見られるそうだ。鎖や梯子が連続してくると間もなく大普賢岳山頂。山上ヶ岳方面からの人たちと合流する。中には吉野から歩きはじめ熊野大社に向かう人もいた。七曜ヶあたりが一番の難所、

行者還の小屋で昼食。ここからは不安のない道が続く。ただし数えきれないアップダウンがある。次第にボディブローを喰らったように足取りが重くなる。トンネルからの登山者で賑やかになり、会話を交わしながら(一休みしながら)のろのろ登る。

予定では午後4時には弥山小屋到着であったが、午後5時になった。今回はテント泊ながら過重を避けるため、夕朝食の三食を小屋に予約していた。テント泊代と合わせ40,000円を8人で30,000円に割り引いてもらえた。強風の午後5時から食事が始まっているので大慌てでテント設営。疲れすぎたせいかあまり食欲が湧かない。熱いお茶がおいしかった。

食後、弥山山頂に行くつもりであったが悪寒がするので、翌朝にし、着込んでシュラフに入る。そのまま朝まで寝てしまう。夜中は満天の星空だったとのこと。ただし風が強く、カメラマンもあきらめた人がいたらしい。

5日(木) 天候：晴れ

午前6時から朝食、弁当ももらい午前6時半八経ヶ岳に向かう。途中はオオヤマレンゲの群生。花の時期にまた訪れたい。

昨日同様快晴で風が強い。歩きやすい道が続く。明星ヶ岳は山頂を踏んだがあとはピークをトラバースしながら南下していく。はるか彼方に大普賢岳を振り返りながら、目標の釈迦ヶ岳が次第に近づいてくる縦走のだいご味だ。

孔雀ヶの行場で修験者たちと長時間雑談カメラマンも同行していた。大日ヶの行場は、今日は割愛するそうだ。

太古ノ辻から奥駈道を外れ急斜面を下る。今までが北奥駈ここから熊野が南奥駈らしい。

前鬼に近づいてくると頑張った私たちを満開のアケボノツツジが出迎えてくれた。

渓谷の流れはそのままでも飲めるらしい。この辺りでは最高の水と地元の人が自慢していた。小仲坊から車までの舗装道路が堪えた。車の中のピースをまず一服、ホツとした。

温泉まで2往復し、和佐又まで回収していると午後4時過ぎに下山したのに午後6時過ぎになった。腹ごなしをし、貸し切り状態の上北山温泉薬師湯で頑張ってくれた足をもみほぐす。午後9時まで休息室で横になってと思ったが、騒々しいので早めに出発した。6日の昼までに帰宅する予定であったが、高速道路の割引もあり、そのまま山口に向かう。ウインドガラスに細かい水滴がつく。途中休みながら

朝4時に到着。一人19,000円で楽しく、しんどい山歩きができた。結局歩行中は一滴の雨にも遭いませんでした。これぞ晴れ男。次の山行はどうだろうか。

楽しく、安全で、格安な山旅を目標にしています。同行希望の方は声をかけてください。

山、ルート、経費、役割分担などルームで打ち合わせをします。

参加者 8人

会員：内藤正美(CL)、吉田克己、森義雄、大谷恵美子、

支部友：加藤信子、

ビジター：藤本和代、

一般：西村俊二、西村信子

5月17日・19日 幸幼稚園の風師山ハイキングサポート

今年も園児とともに風師山へ登る！！

14264 丹下 洽 ・14554 丹下 香代子



写真 風師山山頂

両日とも天候にも恵まれ、17日は年少園児35人、保護者35人、先生3人、サポート山の会から5人、19日は年長園児28人、保護者18人、先生5人、山の会9人がそれぞれ参加しました。風師山山頂では、参加者全員で関門海峡を望みながら昼食をとりました。

17日は駐車場に下山後、全員で周辺の清掃活動を行いました。

当日参加し、園児のサポートのお手伝いされた会員の皆さまご苦勞様でした。

幸幼稚園(門司区老松町)では、園児たちが毎年春に風師山ハイキングを行っています。今年も昨年に引き続き、5月17日(火)と19日(木)の両日、園児はかめコース(年少組)とうさぎコース(年長組)に分かれ、引率の先生、父兄、そしてサポートとして地元山の会の会員(日本山岳会北九州支部、戸ノ上山登山会、門司歩こう会)が参加し、山頂近くの駐車場から約40分かけて風師山に登りました。

参加者 8人(他会員外3人)

会員：関口興洋、馬場基介、丹下洽、丹下香代子、竹本正幸、森義雄、町元里香、

支部友：藤原玲子

会員外：小田幸男、壺岐勝、木村利昭

3月25日「さいわい幼稚園」卒園登山をサポートして 14853 竹本 加代子



「さいわい幼稚園」卒園最後のお別れ登山が1週間遅れで実施された。北九州支部7人、地

元山岳会4人がサポート隊として園児を見守り手助けをする。私は、初めての参加でした。花冷えだが気持ちの良い登山日和の中、小森江子供のもり公園に集合する。子供34人、大人38人総勢72人、矢筈山へ向かっていざ出発！丹下治会員を先頭に子供たちが2人ずつ手をつなぎ続く。自然林の中に可愛い子供たちの声が響きわたる。大人の足だと山頂まで30分の行程を1時間かけての登山となった。

卒園児はたいへん元気で疲れは見られないが、4月から年中さんになる小さい4歳児にとって中々大変な歩きとなった。100m毎に11~1の数字(1は頂上)に可愛い昆虫の絵のパネルが園児たちを励ます。「次は何かな？何かな？」「ありんこ！かぶとむし！」と当てっこをしながら自分の足で歩き通した。こんなに歩いたのは初めてですとお母さんたちも感動の面持ち。

頂上のキャンプ場に到着後は、カレーパーティの準備が始まる。園児が担いできた具材を洗う、皮むき、切る作業をお母さんたちの手を借りながら一緒に調理をする。われわれは火をおこし大が

飯ごうでも炊いたので合計7.8kgのお米を炊いたことになる。カレーも大鍋で準備され出来あがるまで園児たちは自然の中を走り回る。そして、それを見守る。やがてカレーも出来上がり展望台のテーブルに運ばれた。海を見ながらの昼食は格別で、大変美味しくお代わりまでさせていただいた。

片付けの後、菱田さんリードで自然の中にさりげなく置かれた動物の玩具や造花などを幾つ見つけれられるかの宝探しゲームを楽しむ。最後には池田会員から「卒園記念登山」の手作りペンダントを、丹下香代子会員からは干支の折り紙をプレゼントされて大喜び。下山後には森会員差し入れの「よく頑張りましたね」のお菓子のプレゼントに子供たちはまた笑顔になる。ケガもなく無事サポート出来たことにホッとしたのは言うまでもありません。

無邪気な子供の何気ない会話や仕草や繋いだ小さな手の温もりにはいっぱい元気をもらいました。「保育園落ちた日本死ね」の匿名ブログが国会を巻き込んで取り上げられたが、この日の園児たちを通してどうか世の中の子供たち、お母さんたち、幼稚園の先生たちにとって良い未来がくることを祈らずにはいられませんでした。子供たちは未来そのものです。

参加者 11人

会員：馬場基介 関口興洋 丹下治
丹下香代子 池田智彦 竹本正幸 竹本加代子
地元山岳会：小田幸男 菱田哲郎 壺岐勝
木村利昭)

9月14日(木)

三高山小屋 観月会のお知らせ

中秋の名月観賞会(三高山山小屋)と馬見山登山のお知らせです。

期 日：9月15日(木)~16日(金)

集合場所・時間：15日(木)午前8時30分
道の駅「いとだ」

宿泊場所：嘉麻市三高山山小屋 15日(木)夜泊
(No.13541高畠拓生会管理小屋)

行 程

15日 道の駅いとだ(201)→鶴三緒橋西左折(211)
→大隈鮭神社付近右折(ひまわり園方面)(県440)
→嘉麻市馬見キャンプ村→風穴→御神所岩

→馬見山頂上→宇土浦越→水場→キャンプ村
(所要時間約4時間)→なつきの湯→三高山山小屋
16日 三高山山小屋→三高山→白馬山→大法山
→三高山山小屋→なつきの湯→解散

その他：

- ・15日と16日の登山時の昼食は各自持参
- ・15日夕食と16日の朝食は15日下山後、山小屋近くで購入予定
- ・山小屋宿泊のためシュラフ等必要となります。
- ・食事に必要なカップや皿、はし等は各自持参してください。鍋やコンロ等があれば持参してください。また、入浴のため着替え持参。

申込み 榊 俊一 (TEL:092-947-3208)

(TEL:090-8416-4194)

締切り 8月31日(水)

5月18日(日)平成28年度第1回 山岳専科に参加して 北九489 三宅 明子



写真 ビジターセンター

今回の山岳専科は、血倉山頂ビジターセンターまで歩き、山岳会についてのオリエンテーション、園川先生の講義、という流れだった。

まず、指導員と研修生でグループを作り、歩くよう伝えられた。ルートは煌彩の森コース。指導員は、標高と気温の関係や、風速と体感温度の違い等を教えてくれた。また休憩時に脈拍数を測り、平常時と比較し、どれくらい脈拍数があがり歩いているか確認した。

到着後、センター内で磯野副支部長より日本山岳会のオリエンテーションがあった。日本山岳会の歴史や「山の日」制定の経緯、北九州支部の活動内容について説明があった。山岳会の活動は多岐にわたり、支部にも多くの同好会があることを知った。

昼食後、園川先生からの講義。まず、ビジターセンターに到着するまでに指導員からどのような話があったかを聞かれた。このヒアリングを基に、先生の話が始まった。特に歩行技術の説明は分かりやすく、下りの衝撃荷重をいかに抑えるかの話はヒザの悪い私にとって今後の重大なテーマだと感じた。さらに、大腿四頭筋のトレーニングや登山後のケアについての説明があった。登山を行う際、下山後のケアについてはないがしるにする場合が多い。ケアすることで、次の山行にベストな状況で臨むことができると思った。

今回、新たなことを学んだ一方、自分自身の今後の課題も見つかったのは大きな収穫だった。園川先生の分かりやすく人を飽きさせない話術で、次回もまた参加したいという気持ちになった。

また、関口支部長の「自立した登山者になるように」とのメッセージは強く私の心に残った。今後も山岳会の活動等を通し、自己研鑽を怠らないようにしようと思った。

最後になりましたが、園川先生を始め指導員の方々

には大変お世話になりました。ありがとうございました。

受講者 21人

講師：園川陽造

会員：磯野文雄、関口興洋、竹本正幸、竹本加代子、赤瀬榮吉、森本信子、縄手修、森義雄、大谷恵美子、三浦利夫、山中秀正、町元里香、清家幸三、藤井信義、伊藤友紀
支部友：加藤信子、村上正治、廣木秀利、津嶋宏美、三宅明子、大塚浩美

6月5日(日) 平成28年第1回指導員 養成講座を受講して

◆14916 赤瀬 榮吉

今回は、事前対策が重要であることの講話から始まり、ダイレクトビレイ(直接)、スタティックビレイ(間接)をA4用紙に書きなさいとの問題に満足に解答できず、急遽スタティックビレイを主に、再研修をお願いし、3期生の養成講座の時間を潰し恐縮しました。他人の解答用紙の採点と、各自ホワイトボード図示による発表。

昼からは、庭での各自スタティックビレイの実技発表と実習。部屋に戻りグループ分けでの課題発表と、より良い方法は他にないかとの問いに、全く答えられず、自分の学力、技能レベルの低さを痛感しました。(私の答案採点は、10点満点中5点でした)

今日の研修内容は個人およびグループ発表の時間が多く、自分の理解レベルがわかることができ、内容を理解するうえで良い研修だったと思います。

指導員として、3期生を迎え指導する立場でありながら、2期生の再研修の内容となったことを反省します。

次回から、もっと事前準備し、指導員C級の自覚をもって臨みたいと思います。



写真 ふれあいの家

◆16562 三浦利夫

6月5日(日)血倉山ふれあいの家において平成28年度第1回目の指導員研修が開催され、1期生7人・2期生4人・3期生2人合計13人が出席しました。

今回は特にピレー(確保)について学び、冒頭より筆記試験が実施され、午後からは実技の講習が行われました。ピレーに関しては、支点を複数とることや流動分散等により安全を高める事の重要性を認識しました。万が一の事態に陥ったとしても、命は絶対に守らなければならないのです。

その時はわかっているつもりでも時間の経過とともに忘却してしまいます。知識を定着させるためには物事を深く理解し、反復繰り返す事が大切です。生活の中にも訓練を取入れ知識を自分のものとし、

いざという時に対応できる様にすると共に、指導員としても恥じない様に自己研鑽に励みたいと思います。

受講者 13人

講師：園川陽造

1期生：竹本正幸、竹本加代子、繩手修、森義雄、三浦利夫、山中秀正、町元里香

2期生：伊藤友紀、赤線榮吉、藤井信義(欠席)、藤井淳子(欠席)、奥田スマ子、歳弘逸郎

3期生：清家幸三、藤原玲子(欠席)、三宅明子、坂本昭弘(欠席)、出水貴之(欠席)

5月22日(日) 戸ノ上山で「登山体力測定」を実施しました



写真 大台ヶ原

基に行くということで、自分が被験者になったらどのような結果が出るかに興味を持ち参加しました。

門司駅から出発。門司駅から滝の観音までは住宅地等を通り到着。直前の上りで少しバテテしまった。ここからが本番。ほぼ直登のガレ場をとところどころにつけられている赤テープ頼りに進む。時折、心地よい風が吹き、気分を和ませてくれる。私は門司駅から山頂まで88分で到着した。きつさを図る値(メツツ値)は概算6.6で、「ハイキング~通常登山ができる体力」とのことだった。

帰りは登りとは別の桃山コースへ。途中の大台ヶ原では門司や下関を一望でき、しばし景色を堪能した。下山後に簡単なアンケートを記入し、体力テストは終了しました。

このテストを通し、自分の体力を数値で把握できたことは貴重だった。自分がよく行く英彦山等でこのテストを活用し、トレーニングに役立てたいと思う。また、定期的にこのテストを受けることで自分の体力向上に繋がると思うので、今後も受けていきたいと思いました。

最後になりましたが、磯野副支部長をはじめ、スタッフのみなさま、道の誘導や準備等ありがとうございました。

最後になりましたが、磯野副支部長をはじめ、スタッフのみなさま、道の誘導や準備等ありがとうございました。

マイペースを維持して
急登を駆け上がる！！

★北九489 三宅 明子



写真 三宅明子さん
：マレーシアのキナバルにて

5月22日 晴れ

今年4月に山岳会に入会し、英彦山の清掃登山に参加し、今回は支部主催の「登山体力測定」にも参加してみました。

磯野副支部長から登山体力測定は、鹿屋大学の山本教授が提唱する「マイペース登高能力テスト」を

疲れはてた先は関門海峡の景色と さわやかな気持ちと!

★北九494 和田 敦子

4月に入会した和田敦子です。よろしくお願ひします。

戸ノ上山体力測定に参加するということで、事前に戸ノ上山のルートネットなどで調べて「瀧の観音コース」を登るのだと予想し、地図などを見たり、ネットでの登山記録を読んだりして「この辺を登るのだろうか」、「結構な急登だ」など思いをめぐら

せての当日となりました。

実際に登ってみて、山頂までずっと登りでガレ場、足の置く場所を間違えると小さな石が転がり、初めて登る場所なのでルートの確認をしながらでスムーズに登ることは出来ません。今の自分の実力を知ることができ、これから登山していくにあたり、勉強になる一日でした。また、戸ノ上山は山頂からの展望もよく、門司の海や船も見ることができ、天気が良かったこともありとてもさわやかな気持ちになりました。

山頂でいただいたコーヒーもおいしかったです。参加者の皆様、本当にありがとうございました。

★★戸ノ上山(マイペース登高能力テスト) の実施報告(抜粋)★★

13533 磯野 文雄

はじめに

本会では、初めて「マイペース登高能力テスト」を実施しました。本稿は、その結果報告です。マイペース登高能力テストというのは、「きつさを感じる手前のペース=12、

表1. 主観強度(きつさ)の分類

20	
19	非常にきつい
18	
17	かなりきつい
16	
15	きつい
14	
13	ややきつい
12	(きつさを感じる手前)
11	楽
10	
9	かなり楽
8	
7	非常に楽
6	

つまりマイペースで疲労しなように登高した時に、1時間あたりで何mの上昇ができるかによって、何メッツの体力があるかを推定するものです。」(表1参照) 今回のコース(門司駅~戸ノ上山)の場合、62分以内に上ることができれば8.5メッツ程度、63~77分であれば7.3メッツ程度、78~102分

であれば6メッツ程度、103分以上かかれば6メッツ未満の体力であるという、暫定的な目安を作りま

表2

体力度	タイム	メッツで表した体力	該当者数	該当者%
Iランク	62分以内	8.5メッツ程度	1	4.2
IIランク	63~77分	7.3メッツ程度	3	12.5
IIIランク	78~102分	6.0メッツ程度	20	83.3
IVランク	103分以上	6.0メッツ未満	0	0

した。また、これを順に、Iランク~IVランクにわけ、体力度ランクとしました。

結果①-ゴールタイムの状況

参加者はスタッフを含め全部で29人でした。テストへの参加者は24人で、5人は登路の誘導及び記録や資料の配布・説明等のスタッフとして協力していただきました。内訳は、男性会員が11人、女性会員が13人で、平均年齢は62歳でした。

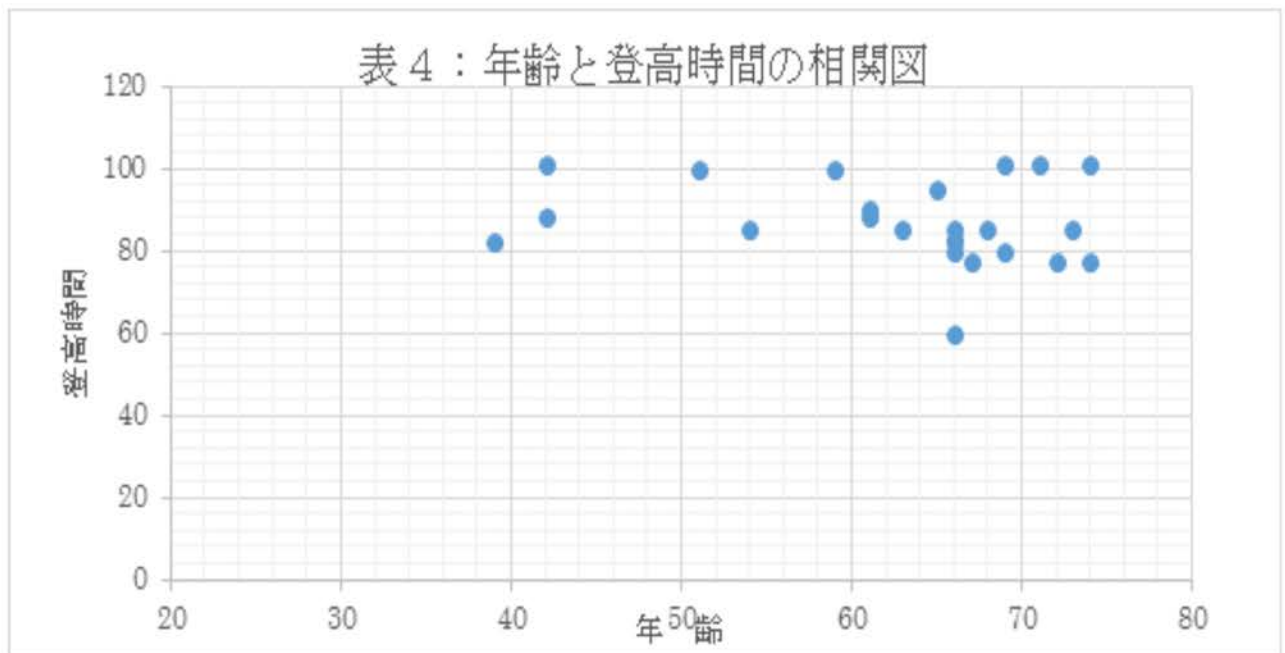
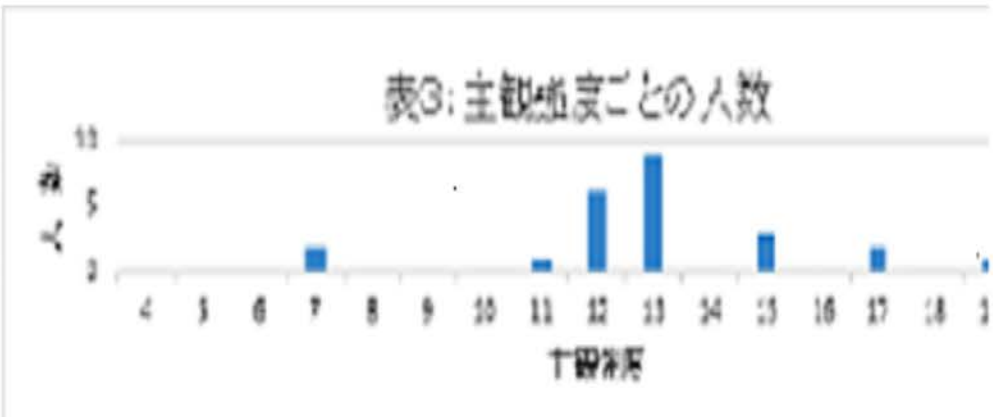
表2は、4つの体力度ランクに対して、24名の参加者のゴールタイムがどのように分布したかを示したものです。Iランクとなった人が4.2%、IIが12.5%、IIIが83.3%で、IVランクの人はいませんでした。結果を見ると、圧倒的にIIIランクの人の参加が多かったことがわかります。今回の特徴としては、体力がIIIランク、つまり、6メッツから7メッツの間の方々が参加していたことがうかがえます。

結果②-主観強度(きつさ)の状況

このテストでは「きつさを感じる手前のペース=12」で歩いてもらうことが大切な条件です。安全性を保ちながらテストを行うためには、きつさを感じない上限のスピードで歩くことが必要です。表3は、このペースで歩いていたかを確認するために、ゴール地点で全員に心肺のきつさを尋ねた結果です。平均値で見ると、心肺のきつさが13、若干オーバーペースで歩いていたことがわかります。これは、本会としてはじめて「マイペース登高能力テスト」を実施し、慣れていなかったこと、などが要因として考えられます。「19」や「17」というかなりの無理をされた方がおられたのは、体調管理の面から、今後さらに説明の時間をとる、などの対策が必要であると考えます。

表3は、このデータをグラフにしたものです。12以下のきつさで歩いていた人は9人(40%)、13で歩いた人は9人(50%)いました。13(ややきつい)のペースで歩くと体内には乳酸が蓄積しはじめ、筋肉が疲労したり、息切れが起こる人が多くなります。今回は、初めてのテストという事や、周りの人の速さを意識して、やや速く歩いてしまった方が半分程度いたこととなります。なお15以上のきつさで歩いた方も6人(25%)いました。

今回、速く歩きすぎてしまった人は、普段山を歩く時と同じような感覚で、何度か主観強度を自問自答しながら歩いているうちに、マイペースがつかめると思います。このテストは自分でできるので、次回は落ち着いた環境でやってみるとよいでしょう。



数回やれば、ほとんどの人は12のきつさで歩くことができると思います。また、そのように日常的な登山でも歩かれることを、安全な登山のためにも勧めたいと思います。

結果③-年齢とタイムの関係

表4に示すように、年齢とこのテストの成績との間にはほとんど相関がありませんでした。つまり、若いから速いとか、歳をとっているから遅いとかとは、関係があるわけではないようです。

表からは読み取れませんが、推測で、40代前後の方々は日常的に登山(トレーニング)をできる環境ではない(例えば仕事など)ので、その分登高時間が長くなった、とも考えられます。

上述の結果を踏まえ、本会として「マイペース登高能力テスト」の利用や結果を、今後どのように活かしていくか、が課題といえそうです。実施に際しては、山本正嘉先生をはじめ長野県の山岳総合センターの諸資料を参考にさせていただきました。我々は、これらの成果に感謝し尊重しつつ、自らの登山を振り返り、より安全な登山をするように努めることで、先生方の研究と安全登山への思いに応えたいと思います。また、関口支部長をはじめ、重い水を担ぎ上げて山頂にてコーヒーをふるまってくださったスタッフ、暑いなか道路や山道での誘導に当たってくださったスタッフの方々、忙しいなかご参加いただいた皆さんの友情とご協力に心から感謝いたします。

寄稿

「第一次彦山対大友合戦」

11454 井上 佑

英彦山はJAC北九州支部のシンボルである。時々来るだけだが、私が中岳に登ってから60年になり、この山塊の、東は三陀山(931[㍉]、中津市山国町)から、西の大日ヶ岳(830[㍉])まで登り、南岳の断崖をザイル無しで降り、1071[㍉]ピークには「鹿の角」と名付けた。今回、英彦山を書こうとしたが各分野に亘り出版があり、希少なのが、彦山と戦国大名大友宗麟の合戦で、これを調べてみた。

中世の彦山寺(神)領(彦庄と呼ぶ)は、豊前国田川郡の添田・大任、京都郡伊良原、下毛郡山国。豊後国は日田北部。筑前国は朝倉郡甘木黒川・小石原・宝珠山、嘉麻郡は宮野があり広大だった。

周囲は、北に城井氏、南に大友氏、西に秋月氏で、戦国大名の武力侵略を受ける。中世では本来、寺社領は守護不入が原則だが崩されて来た。

当時の彦山座主(ざす)は、世襲制で、女人禁制の彦山には住めないで黒川(朝倉市甘木)館で妻帯していた。従って、彦山の意思決定は、大講堂で衆議を談合決定し、代表者が黒川に下り承認を得る為に迅速さに欠け、山伏達の合意が無い限り、座主の一存では決まらない手順になっている。

弘治元年(1555年)の年末、秋月種方と論争が起き、彦山から宝満への道が閉ざされ、2月の「松会」が危ぶまれたが筑後星野氏の仲介で解決した。

永禄10年(1567年)、彦山衆徒は大友宗麟の参陣催促を拒否した。これは彦山座主に仕える宝珠山家に戸次鑑連が取り入り、当家が彦山派と大友派に分裂して12月、彦山門坊が自害した為であった。

大友軍は豊前から小石原に侵入、二股岳(653[㍉])に陣を築くが、翌年1月、山伏が主体の彦山衆と山領之衆(彦庄の在地武士団)が二股を奪回し、大友軍は木浦陣(陣屋ダム上流、標高470[㍉])に退却し、「陣屋」の地名はこの時に生まれた。

大友は日田・玖珠郡衆を動員し宝珠山村を攻め、2月、福井の庄林山城を内応させ、日田の石松宗叟が城将になり占領を続けた。彦庄である福井の領主福井弾正種善は、坐主の側近であり近親者で、黒川院で座主に近侍していた。

小石原は豊前・豊後・筑前筑後からの道が交わる要衝で、彦山にとっても深山宿は宝満山金剛界と結合する聖域的な存在で、大友側の攻略は成功しない。大友宗麟は待ち切れず、6月、田原親宏と親賢(先年、宇佐宮を焼討)の国東衆3千で東の彦水川を遡り薬師峠から攻め、彦山の堂宇は多くが戦火で焼け落ちた。

この時、亀石坊・一老坊・政所坊の山徒は神輿を奉じて黒川に向かったが、小石原で襲われ神輿を焼き自害した。ここには老松と石祠、墓碑がある。

小石原高木神社で9月に行なわれる神楽には「神輿松の舞」が舞われている。8月20日、大友軍は中宮に陣を構築し彦山衆と小競合いを続けたが、火縄銃と弓の大友軍には勝てない。山伏達は分散して潜み、火縄銃と弓が役に立たない夜間に、大友陣に迫り投石の波状攻撃し睡眠を摂らせなければ退却する。この頃、秋月種実が大友の軍門に下り、嘉麻郡の千手(せんず)氏も降り、彦山周囲の情勢は悪くなる。

永禄12年3月、彦山政所坊信乗父子が山伏を率い、岳滅鬼山を越えて宝珠山村岩屋の宝珠山氏の持ち城、医王寺城に入る。ここには、次期彦山座主になる人物も守備していた。4月5日、小鹿田(日田市)に駐留する大友玖珠日田衆を攻撃したが、失敗して村境の金剛野峠で逃げ切れず自害した。

一方、彦山座主連忠は3月18日、佐田岳(甘木市、鳥屋山、とやさん、645[㍉])に籠城した。

昔、鳥屋山に登ったが城の遺構は無かった。大友軍日田衆の攻撃を受け、3月末に座主側近の津野備後守(田川郡津野)と乙石美濃守(朝倉郡杷木)が討ち死にし、落城、佐田には千人塚がある。

この人達は、彦山衆ではなく、筑前国彦庄の武士団と農民達だった。13代座主連忠大納言禪師と護衛の福井種禅は鳥屋山から何とか脱出するが、大友軍の追跡に耐え兼ね5月7日、自害したが場所や墓も不明である。

こうして、合戦は大友宗麟の勝利に終わり、座主のいない彦山に、宗麟の三男「三位公」を座主後継者にしよう要求した。彦山側は、助有法親王の血脈でなければだめだと断り、皇胤を続けると宣言した。彦山政所坊は大至急後継座主を決める必要があり、前座主連忠の弟で唯一生き残り、寶珠山家に養子入りしていたのを、得度し、8月1日、14代彦山座主舜有が誕生した。舜有の母は、12代座主連有の正室で豊前国城井興房の娘だった。舜有には彦山再建という重大な使命を負い、大友宗麟から座主後継者に三位公を、との要求が続くが、大友家に兄弟を殺された座主には、呑める話ではない。毛利軍は、11月に門司城のみ残し九州から撤退した。

永禄13年正月、大友家の寄進で仮講堂が建ち、4月には龍造寺隆信により上宮拝殿と白山宮が再建され、元亀4年には下宮と北山殿も復興した。

◇◇月例山行のご案内◇◇

支部会員、支部友会員による県外山行
(北九州支部エリア外)は「登山計画書」
を必ず事務局に提出しましょう。

8月の山行

- 8月20日(土)～21日(日)矢筈山での暑気払い
テント泊の訓練
と き：8月20日～21日
集 合：午後2時 小森江子供のもり公園駐車場
行 程：
20日 子供のもり公園～矢筈山キャンプ場
テント設営の訓練、食事(共同)
夕食後交歓会
21日 6:00 朝食
10:00 下山(予定)
申し込み：8月5日(金) 丹下まで

● 第2回山岳専科

- 講師：園川 陽造
リーダー：三浦利夫、サブリーダー藤井信義
と き：8月21日(日)
集合場所：血倉山ケーブルカー山麓駅駐車場
時間：午前9時集合
会場：血倉山ビジターセンター
内容：読図、登山計画書、その他
装備品：通常登山装備一式・コンパス・定規・
筆記具・昼食
申し込み：三浦利夫(携帯090-2850-6020)
締切り：8月14日(日)

9月の山行

- 岩登り教室(山口市陶ヶ岳) ※装備が必要です
リーダー：武永 計介
と き：9月3日(土)
集 合：午前8時30分 陶ヶ岳登山口
場 所：陶ヶ岳
装備：一般装備、ヘルメット、ハーネス、カラビナ、スリング、エイトカン、確保器、クライミングシューズ、昼食、飲料水、他、
共同装備：ロープ(50m×2本、40m×1本)
申し込み：武永計介(携帯090-6739-9251)
締切り 8月23日(火)
- 第2回指導員研修
講師：園川 陽造
リーダー：山中秀正

- と き：9月4日(日)
集合場所：血倉山(ふれあいの家)
集合時間：午前9時
内容：血倉ふれあいの家にて講義など
携行品：一般登山装備及びクライミング装備、
昼食、筆記道具他
申込み：山中秀正(携帯080-2754-8370)
締切り：8月27日(木)
- 涌蓋山(1499.5m)
リーダー：赤瀬榮吉 歩行所要時間5時間
と き：9月11日(日)
集合場所：九重森林公園駐車場 ☎0973-79-2200
集合時間：午前9時
行程：森林公園駐車場～一目山～涌蓋越～涌蓋山
(ピストン)
申込み：赤瀬榮吉(携帯090-7475-9748 or E-mail)
締切り：9月4日(日)
② 彦山・冠ヶ岳の計画を地震の影響で上記に変更。
(バス利用での移動は中止します)

10月の山行

● 第3回山岳専科 (期日変更)

10月2日(日) ⇒ 11月27日(日)

● 広島支部との交流会

- と き：10月8日(土)～9日(日)
会 場：広島県芸北の聖岳、高岳周辺の山行(予定)
宿泊場所：斎山荘(広島支部会員斎さん所有の
別荘) 予定
詳細については、決まり次第お知らせします。
参加者が決定次第、全員でルームにて打ち合わせ
を行います。
申し込みは、9月15日まで内藤正美まで
(携帯090-8993-0239)

● 九重・黒岳(1587m) 宿泊：テント泊

- リーダー：内藤正美
と き：10月15日(土)～16日(日)
集合場所：九重沢水キャンプ場
時間：午後3時集合
行程：九重今水登山口～黒岳(ピストン)
装備品：通常登山装備一式・宿泊用装備
夕食はバーベキューを予定しています
申込み：内藤正美(携帯090-8993-0239)
締切り：9月25日(日)
その他：参加者が確定次第、ルームにて打ち合わせ
を行います

●石鎚山(天狗岳1982m) クラス：中級
 と き：10月22日(土)～23日(日)
 集 合：10月22日(土)15時00分 旅館
 宿泊地：石鎚温泉「京屋旅館」宿泊
 TEL:0897-59-9335
 行 程：京屋旅館～石鎚山0-7ウエイ(7:40始発)
 ～夜明峠～弥山～天狗岳
 (往復 約7時間30分)
 申込み：三浦利夫(携帯：090-2850-6020)
 締切り：8月20日(土)
 宿泊先確保の為早期に締切厳守
 携行品：飲料水、雨具、非常食、保険証
 常備薬、着替え(弁当手配可) etc.
 その他：車による移動を予定
 10月23日(日)帰宅は遅くなります
 参加者確定後詳細打合せ

・関口新支部長のあいさつ(集約)
 伊藤支部長のあとを継いで、役員全員で協力して今後の課題に取り組んでいきたい。山の日記念行事の取組、財政再建、クラブライフを豊かにすること等々課題はたくさんありますが頑張りましょう。

議 題

(1) 会員の異動状況

・通常会員：73人(76人)

入会者(1人)

退会者(4人)

・支部友：46人(44人)

入会者(13人)

退会者(10人)

・現在の会員数

通常会員73人+支部友46人+会友4名

計：123人(125人)

(2) 会費納付状況 未納者：支部友：北九456広瀬大地(3年)、北九474藤田佳代(3年)

(3) 山行・行事報告

・3月13日 黒髪山往復(三浦、畑井)4人、青螺山～黒髪山(塚本、森)15人

・3月18日幸幼稚園卒園ハイキングサポート(丹下)支部7人+地元山岳会4人(大人38人、子供34人=52人)

・3月27日北浦スカイライン(森)中止

・4月 3日 岩石山(山中、畑井)14人

・4月2日～3日 市房山(塚本、清家)テント泊6人

・4月9日～10日 全国支部懇(越後支部)2人参加

・4月17日 英彦山清掃登山 支部28人 添田町役場22人 筑豊山の会4人

田川かたつおりの会2人

ボランティアガイド1人 57人参加

軽トラック2台分のゴミ

・4月23日～24日 京都滋賀創立30周年記念式典 3人参加

・3月23日 英彦山トイレ清掃(1人)

・4月29日～5月1日

祖母・傾縦走 → 地震のため中止

・5月8日 四王司山6人

・5月14日 碑前祭40人、「マナスルに立つ」上映会48人、総会40人、懇親会39人

・5月15日第1回山岳専科 22人(新支部友5人オリエンテーション)

(4) 山行・行事計画

・5月22日 戸ノ上山にて体力測定

月例

◇◇ポレポレ山行のご案内◇◇
 担当：丹下 治

○7月21日(木) 岳切溪谷(耶馬溪)

川歩き

○8月20日(土)～21日(日)矢筈山での暑気払い

テント泊(月例山行に掲載)

○9月以降の日程(予定)

9月8日(木)、10月20日(木)、11月17日(木)

◆集合時間や行程についての問い合わせ先

丹下治(携帯090-3732-8843)

会 務 報 告

●平成28年5月定例役員会議事録

日 時：平成28年5月18日(水) 18:00～20:00

場 所：当支部ルーム(毎日会館1F)

出席者：

関口興洋、日向祥剛、磯野文雄、竹本正幸、
 丹下治、丹下香代子、縄手修、大木康子、
 大内喜代子、縄田正芳、森義雄、馬場基介、
 池田智彦、

欠席者：武永計介

- ・5月28～29 英彦山山開き
- ・6月2日 弟見山
- ・6月5日 第1回指導員研修
- ・6月12日 福智山
- ・6月12日 平尾台植物観察
- ・6月19日 岩登り教室(平尾台)
- ・7月5日 内住峡沢登り(篠栗線九郎原駅)
- ・7月10日 第2回山岳専科(8/21に変更)
- ・月例山行に関しては山行委員会で1カ月前にメールにて会員に知らせる。

(5) 本部報告事項

- ①第17回通常総会の報告
- ②支部役員の変更報告

(6) 支部組織図はペンディング事項

- (7) 5月26日～7月5日 「遥かなる山」山口県立美術館(招待券10枚)

- (8) 6月25日～26日 山の日制定記念フェスタin福岡(福岡タワー)

- (9) 7月16日～17日 「2016年度自然保護全国集会」高知市 申込み締切:5月31日

(10) 碑前祭、上映会、総会の反省と今後の課題

- ・碑前祭:支部23人+こもれび会5人+風師山早朝登山会1人+一般6人+園5人=40人
- ・映画上映会:48人
- ・総会:40人(通常38人+支部友2人)委任状20人 58人/73人
- ・懇親会:39人
- ・熊本地震義援金 28,000円 集まりました。毎日新聞社を通じて送金。
- ・8月11日の記念行事は、親子登山をあらため家族登山とする。
- ・碑前祭は「楨有恒祭」とし、10月開催を定例化する方向で検討。地元で協力依頼。
- ・月例山行の参加費500円は支部として徴収しない。必要経費については担当者の任意とする。
- ・ビジターは参加費500円を会費で徴収する。
- ・通常会員で支部会費を振り込まない人は、無所属の本部個人会員となる。
- ・今後は、総会の時参加者に年会費を徴収して手数料を節約する。
- ・支部長は、前伊藤支部長に顧問の役職を依頼する。
- ・山行への参加はメール、ファックス、手紙、電話で呼びかけ、締切り厳守。
- ・記念行事における祝儀(お酒等)は参加者で負担する。全国支部懇、九州5支部懇は支部より祝儀(お酒等)を出す。

- (11) 英彦山・福智山バイオトイレの状況について支部報に掲載する。

- (12) 支部入会パンフレットを1000部印刷。

- (13) 名簿の取扱い(個人情報注意)会員用と役員用区別する。

●次回定例役員会は、7月6日(水)の予定です。

文責 竹本 正幸

サロンのお知らせ

小倉 サロン

場 所:小倉北区魚町「コール天」

申込み:森義雄(携帯090-4475-7799)

★小倉サロンは毎月第4週の水曜日に開催しています

- ・7月27日(水) 午後6時から
「一般登山のセルフレスキュー」
山と渓谷DVD約30分
- ・8月24日(水) 午後6時から
「DVD登山ガイド穂高」「展望登山ガイド北岳」
約30分(山溪)
- ・9月28日(水) 午後6時
園川教室シリーズNo5 前編 40分
「山中における一般的な救助技術と処置」
- ・10月26日(水) 午後6時から
園川教室シリーズNo5 後編 40分
「山中における一般的な救助技術と処置」

博多 サロン

★. 8月4日(木) 午後6時30分より

- ・場所:中央区天神2-6-42 平和楼3階
旬魚旬菜「てんじん」(092-771-9143)
- ・申込み:赤瀬榮吉(携帯090-7475-9748)
携帯電話かショートメールで

山の日制定記念 夏山フェスタin福岡2016が開催されました

6月25日(土)および26日(日)に、福岡市福岡タワー(多目的ホール)において、講演およびセミナーが開催されました。主催は夏山フェスタin福岡2016実行委員会(全国山の日協議会:日本山岳会、日本山岳協会、日本勤労者山岳連盟、日本山岳ガイド協会、HAT-J)、季刊のぼろ(西日本新聞社)で、日本山岳会北九州支部も協力団体として参加をしました。

当日は、北九州支部の多くの会員の皆さまが講演などに参加されました。

ご協力ありがとうございました。

英彦山山頂トイレ掃除日の予定

英彦山山頂トイレの清掃予定日は以下の通りです。会員皆様のご参加協力をお願いいたします。

期日(7月~10月)

- ・ 7月20日(水) ・ 8月31日(水)
- ・ 10月12日(水)

※参加できる方は、事前に事務局までお申し込みください。当日、英彦山別所駐車場に午前9時集合し、山頂へ向かいます。

緊急連絡先登録票の提出のお願い

当支部では、昨年からの会員の登山時の緊急時対応のため、「緊急連絡先登録票」の提出をお願いしています。登録票の提出がまだの方は、森までご提出をお願いします。

なお、登録票の様式が必要な方は、森までご連絡ください。

メールアドレスは、
tokuyoshimori@jcom.home.ne.jp です。

会員の異動

○新入会員

- ・ 通常会員へ 伊藤 友紀
- ・ 支部会員
 - 大塚 浩美 (北九491) H28.5月入会
 - 中畑 智子 (北九492) H28.5月入会
 - 山口 得知代(北九493) H28.5月入会
 - 和田 敦子 (北九494) H28.5月入会
 - 藤井 恒介 (北九495) H28.5月入会

○退会

- ・ 通常会員
 - 15650倉本とき子、13743橋本建一郎
- ・ 支部会員
 - 北九356坂本勝喜、北九357坂本おつみ、
 - 北九458高岡瞳、北九327田中峻、
 - 北九255岡村廣雄、北九466岡部隆直、
 - 北九452最所和彦、北九450大賀健次、
 - 北九307森サエ子 北九440小濱隆



居酒屋「コール天」

- 小倉北区魚町1-2-23 桧山ビル2F
- TEL:093-522-0565
- JR鹿児島本線 小倉駅南口から中央銀天街方面に向かい徒歩5分
北九州支部は毎月(第4週水曜日)のサロンでお世話になっています

8月11日(祝) 山の日制定記念・ふるさとの山に登ろう!

「風師山～矢筈山・家族登山」



山の日制定記念として、下記の内容で家族登山を計画します。ぜひご参加ください。

また、ご家族や友人などに呼びかけてご参加をお願いします。

◆主催：公益社団法人 日本山岳会北九州支部

◆後援：北九州市、毎日新聞社

公益社団法人北九州市観光協会

1、と き：平成28年8月11日(祝日・山の日)

2、目的地：北九州市門司区・

風師山(364.3m)～矢筈山(266m)

3、集 合：JR門司港駅前 午前8時45分

4、コ ー ス(予定時刻)

9：00JR門司港駅発

11：00風師山風頭着(休憩)

(横有恒記念碑について参加者に説明)

11：30風頭発

12：30矢筈山着(昼食)

(山頂には旧陸軍の堡壘陣地跡が残っており、

一 キャンプ場や展望台として使われ、上水道や水洗トイレも完備されています。

なお当日は、子供を対象にスイカ割りなど行います)

14：00矢筈山発

15：00JR小森江駅着(解散)

5、参加費：100円(イベント保険料含む)

6、参加資格：小学生以上。

但し、中学生以下は保護者同伴

7、申し込み：住所、氏名、年齢、性別、電話番号を記入の上、FAXまたはハガキで下記へ

〒800-0028 北九州市門司区下二十町4-1-505

丹下 洽 FAX&電話 093-391-8193

8、申し込み先など

①会員は、7月31日まで事務局へ、

②一般は、8月3日まで丹下会員へ

9、装備服装：靴は軽登山に適したものの。

帽子、タオル、昼食、飲物(水又はお茶)等。

10、サポート態勢：なお、当日会員は参加者を各班にわけ、その前後および中間で引率し、事故防止に努めます。会員のご協力をお願いします。

※家族登山のお知らせは、毎日新聞社の催事案内、北九州市政だよりにも掲載される予定です。



スナック **ぎんなん 銀杏**



童謡・懐メロ・
寮歌・校歌・唱歌・
軍歌・県歌・他

★★童謡唱歌・懐メロ愛好会開催★★
毎月第2日曜日 午後1時から5時まで

北九州市小倉北区鍛冶町1-2-2
(坪根ビルBF)

TEL 093-541-5516